

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000260		
法人名	有限会社 睦和福祉会		
事業所名	ライフサポートあさひ		
所在地	佐賀県佐賀市川副町鹿江1413-8		
自己評価作成日	平成27年4月10日	評価結果市町村受理日	平成27年7月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スプリンクラー設備やリビングや居室には空気清浄加湿器を設置している。害虫駆除や衛生面でも専門の業者をお願いをし、定期的に点検が行われている。感染症の予防に対しては、ノロウイルスに効果のある塩素を含む消毒液を毎日作り、手すりやトイレの床などを拭きあげている。また、入居者様の状態に応じ、簡単なリハビリを実施、カラオケしたり、体を動かしたり、塗り絵をしたりとレク活動を行っている。希望に応じ主治医と家族の同意のもと、訪問マッサージを医療保険で安く受けることができる。浴室にはリフトが設置されており、寝たきりの方も浴槽に入ることができる。ベットからの移乗の際、安全に移乗できるように介護ロボットを導入している。これにより、職員の腰痛軽減にも役立てられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地と田園に囲まれたのどかな環境にあるホームは、リビングには絵手紙や入居者一人ひとりの似顔絵と手紙が飾られている。居室には馴染みの小物がきちんと置かれ入居者が安心して生活できるように配慮されている。リビングや居室に置かれている空気清浄加湿器や消毒液など衛生面にも力を入れている。今年、入浴介助にリフトを導入と、介護ロボットを各ユニットに1台導入し、より安全な介護と、介護者の労力負担軽減にも努められている。家族会を年に2回実施しており、遠方の家族も楽しみして参加するなど入居者や家族との関係作りの良い機会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小ミーティングや全体のミーティングで理念に基づいた取りくみを行えるように話し合いを行っている。また理念はリビングに掲示している。	小ミーティング、全体のミーティングをそれぞれ2ヶ月に1回実施されている。理念はフロアに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川副ネットワークの勉強会、敬老会に参加している。回覧板など。	地域の医療福祉関係者のネットワーク会議や、地域の敬老会に入居者に付き添い、参加されている。しかし、近所の方と挨拶を交わす程度で、日常的な交流の機会は少ないところである。	避難訓練参加の促しや、地域の清掃等の地域行事に参加する機会を作られ、地域交流を増やしていく取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の家族には、認知症の方に理解や支援の方法など一緒に考えているが、他の地域の人々には発信できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事に盛り込んで行っているが入居者様の家族の参加には至っていない。	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、外部からは地域包括支援センターが参加され、現状報告や意見交換がなされている。しかし、地域の方や家族は参加されていない。	会議の内容や雰囲気の説明したり、参加しやすい曜日や時間の検討を行うなど、地域代表者や家族の参加者を増やす取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	部屋の空き状況など、おたっしやの本舗との協力関係は築けている。	各地区の地域包括支援センターから相談を受け、独居の方の自宅に同行訪問を行うなど連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため、玄関は施錠している。10:30～11:15までは見守りしやすいように東棟と西棟へ行き来できるようになっている。また、状況に応じて家族への説明と同意のもと安全ベルトを使用しており、使用時間を記録している。	防犯の為、玄関は10:30～11:15以外は施錠されている。現在、車椅子の安全ベルトを転落の危険のある入居者に、家族の同意を得て実施されている。経過を時間帯ごとに記録されている。	日中は職員の数も多い体制にもあり、来訪者等へ、閉鎖的な印象を与えることから、玄関の解錠時間を伸ばしていく取り組みに期待したい。また、安全ベルトについても、時間を決めてフロアのソファを活用するなど、引き続き、解除に向けた検討を行われることにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との勉強会に虐待防止法について学ぶ機会を設けており、利用者様に対する虐待が見過ごされないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に、十分な説明を行い、納得していただいた上で署名、捺印をもらっている。契約終了時にも納得の上で、契約解除届けを書いてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会に1家族ずつ話し合いをする機会を設け、その時に要望などを聞いている。また、玄関に意見箱を設置している。	家族会は、毎回10名以上の家族が参加されている。ハローウィンの時は、家族も仮装をして一緒に写真をとるなど、入居者と楽しい時間を過ごせるように取り組まれ、家族が気軽に意見を言ってもらえる関係作りに努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できるだけたくさん意見を出しやすく、言いやすいように職員を2つのチームに分け、ミーティングを実施。その意見を全体の会議の話し合いで発表できるようにしている。	意見が出やすいようにと、職員をユニットごとのグループに分けて会議が行われている。またノートを設置し、職員の気づきや意見を記入できるように工夫がなされている。出された意見は、運営に反映するよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人の勤務姿勢を把握した上で賞与に反映するようにしている。また、主婦の方は子供を連れてきていいようになっている。冬場は感染症も流行るので薬品会社よりインフルエンザになりにくい飲料を購入し、ティータイムの時に入居者様は飲まれている。職員の腰痛軽減のために、コルセットなど購入されたり、入浴リフトや介護ロボットを導入している。冬場には消毒液など配られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修を受けられるような機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	経営が同じグループホーム職員との交流の場を設けてあり。お互いの業務に関して意見交換が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時やサービスを開始する段階で利用者が困っていることや、要望が無いかを傾聴し把握していく努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時のアセスメントで家族からの要望や心配事はないかを話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に、今後必要と思われるサービスを考え実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の昔の生活の知恵や料理の味付け、子育てなど聞かせてもらったり、尋ねたり勉強になる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態に応じて、家族と頻りに連絡を取り合い今後の方針に向けた相談を行っている。また、ご本人より家族に電話され、病院受診したい、カットに行きたいなど、いつでも連絡できるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人に手紙など書かれている方もおられる。電話なども取り次いでいる。また受診の帰りに行きつけの飲食店に寄って外食されることもある。	馴染みの理髪店の訪問理容を受け入れるなど、今までの関係が継続できるように配慮されている。法事や行きつけの店での買物などは家族の協力を得て実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通してなるべくリビングで過ごしていただき、職員や他の入居者様と交流が出来るようにしている。また、ユニット間の扉がガラスなので2ユニットが見えるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時や普段の生活の中で、定期的なアセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。困難な場合もなるべく入居者様本位のサービスが行えるように考えている。	入居者からは、日常の関わりの中で個別に意向を確認されている。意思の疎通が取れない方は、表情や態度で判断されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に今までの生活環境や生活歴について話を聞き、ご本人様の趣味や嗜好、サービス利用の経過について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の担当職員をはじめ、全職員が普段の生活状況を見ながら、利用者様のその時の状態を有する可能性について把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、全体会議での意見交換、家族と担当者を交えてのモニタリングなど、主治医からの意見に基づき、現状に即した介護計画書を作成している。	必要時や、3ヶ月に1回のモニタリングと、半年に1回の評価、アセスメントが行われている。本人や家族の意向、医師の意見や職員の気づきも計画に反映されている。家族会で個別に家族へ計画を説明されている。しかし、担当者会議の記録の整備は十分ではない面が見られる。	課題の検討や、計画と連動した会議の記録となるよう、担当者会議の記録の整備に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、毎日のケアやきづいた事を記録してあり、職員間で申し送りを行っている。内容によっては、介護計画に組み込んでいる。また、毎日の勤務者でリーダーを中心に話し合い、気付いたことなど書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の必要があり、その際に家族の付き添いが出来ないときは有料ではあるが代わりに職員が付き添い、受診している。また、入院中に必要な物品などを準備することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、実施されている川副ネットワークに職員が交代で参加している。移送サービスの利用、お薬の配達、マッサージなど。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけの医療機関の受診を希望されるか否かを確認をしている。	かかりつけ医は入居者が希望する医療機関を継続されている。専門病院との連携も取れており適切な医療が受けられる体制づくりが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて非常勤の看護師と協力医療機関の看護師に相談し、速やかに対応している。往診ノートも作成している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、経過に伴い医療機関との連絡を取り合い、状態に応じて話し合いを設けている。早期退院に向けて働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のあり方について、家族に説明をし、同意書ももらっている。また終末期となられた場合には、家族と医療機関、グループホーム職員が連絡を取り合い、今後の事を話あっている。	契約時に家族へ方針を説明され、同意を得られている。重度化や終末期になられた際は、本人の状態に応じ、主治医の助言を受けながら何度も家族と確認をされている。職員間でも方針を全体会議で周知徹底され、本人や家族の意向に沿える支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊の指導のもと、応急救護の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、地域の消防団との協力には至っていない。夜間想定その訓練は実施している。また、川副の防災ネットワークに参加しており、災害時のラジオも設置している。	火災避難訓練は年2回、日中と夜間を想定し実施され、訓練終了後に会議が行われている。地域の福祉事業者との連携体制作りにも参加されている。避難時に、本人の在室の有無を確認できるように、表札も兼ねたプレートをかけるなど工夫されている。しかし、近隣住民等との協力体制は十分とはいえない。	消防団や近隣住民へ、避難訓練の呼び掛けや避難方法の周知など、地域との連携が取れるよう、取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないように、サービス業として適切な言葉使いができるようにしている。また、1日の申し送りを入居者様に聞こえないように小声で話したり、場所を変えるなど配慮している。	会議において入居者に対し、丁寧な言葉を使うことや、寝かせる、起こすなどの介護者主体の表現を控えるよう周知されている。職員同士お互いに注意し合うなど徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、何をやりたいのか、どこに行きたいのか、何を食べたいのか、お誕生日のプレゼントは何が欲しいのか聞いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の生活の流れはあるが、起床時間、入浴時間、就寝時間、食事の時間などひとりひとりの希望にそっている。またその日着る洋服なども決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、美容室の方に来ていただき、カット、パーマ、カラーをしてもらっている。また、化粧品を買ってきてと頼まれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とりをしてもらったり、食器を拭いてもらっている。またレク時に食べたい食事を尋ねたり、希望を聞いている。食べれない食材については、別の食品を出したりもしている。	食材やメニューによっては、準備を入居者がお手伝いされている。おやつは、本人の好みや希望を聞いて、個別に好きなものを提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録し、水分量が少ない人は水分量をチェックしている。また、嚥下が悪い方はとろみを使用したり、ゼラチンを使い、ゼリーにして提供している。食事形態も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。自分で行えない方は介助し、自分でされる方も仕上げの歯磨きを行っている。スポンジブラシを使用している方もおられる。2週間に1度はポリデント洗浄をしている。口のトラブルは歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々にあったトイレ誘導を行っている。出来るだけオムツを少なくする方向に支援している。家族の意見も反映されている。	排泄は定時の声かけが行われているが、本人の排泄パターンを把握し、入居者個々のタイミングで誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物性の多く入った食材をとバランスの取れた献立になっている。また汁物の具は多くの野菜を入れるようにしている。水分量は疾患に応じて主治医に尋ねており、水分量が少ない方は、量を記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴してもらっている。午前、午後どちらでも良い。寝たきりの方はリフト浴で浴槽に入ることができる。	入居者の希望や体調に応じ、曜日や時間を変更し柔軟に対応されている。今年からリフト浴を導入し、安全に浴槽での入浴を楽しんでもらえるように取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて、入居者様の好きなように過ごされている。居室やリビングやソファなど。昼夜逆転されないように、運動やレク活動を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服に関する説明書があり、ファイルに閉じている。それは職員がいつでも見れるようにしており、把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ好きな方、塗り絵が好きな方、書道や水墨画が好きな方、それぞれ楽しみながら気分転換されている。また夕食後に毎日タオルを洗濯しており、それを干す手伝いもされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えていないが、3がつの花見の時期にはドライブへ出かけている。外部の送迎サービスを利用して外出される方もおられる。	企画する段階で、入居者の希望を確認し、行き先に反映されている。家族の協力により、外出支援をされている。しかし、近くを散歩するなど日常的な外出は少ない状況にある。	今後は、散歩や、外気浴など日常的な外出も増やされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出される方には希望に応じてお金を所持、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族との電話の取次ぎや郵便物を代わりに出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節感のある絵手紙や似顔絵などを掲示している。また、リビングや居室には乾燥を防ぐ為の加湿器や空気清浄機、湿度計を設置している。	フロアの窓が大きく中が明るい構造で、窓を開けると風通しがよい。壁に入居者の写真や手形、似顔絵を飾り、家庭的な雰囲気作りがされている。職員の写真も掲示され、入居者とのコミュニケーションが取りやすくなるよう、工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓に集まり話ができるようには促している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、その他の小物など、今まで自宅で使われていた愛着のあるものを持ち込まれている。	小物を中心に、入居者や家族の希望するものが数多く持ち込まれている。毎朝職員が居室の整理を手伝われ、居心地良い居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が自分の居室と分かるように表札を設けたり、転倒防止のため、センサーを利用し安全に過ごしていただけるようにしている。		